

にしのおいけ

社会福祉法人 平成会

住所 東広島市高屋町小谷 5001-5
 TEL (082) 434-0405
 FAX (082) 434-5599
 メール heiseikai@nishinoike.or.jp
 HP <http://www.nishinoike.or.jp/>
 編集 (社福) 平成会 広報部
 発行者 (社福) 平成会理事長 赤坂 秀則

第 84 号

(平成 30 年 4 月 1 日)



宮領デイセンター4月1日オープン

二〇一七年に介護事業の倒産が百十一件あったとするレポートを、(株)東京商工リサーチが発表しました。職員不足が深刻化している等、経営の舵取りが難しさを増し、業界内で淘汰の動きが加速しているとコメントしています。倒産には社会福祉法人も二件含まれているということです。業績不振、事業の失敗によるものが多いようで、同業他社との競争激化に加え、人件費等が負担となつて赤字経営に陥るといふ様子が伺えます。

障害福祉分野も介護事業同様、必要な数の職員が確保できない事業所が多いと聞きます。例えると、1.7 : 1 (利用者 1.7 人に対し職員 1 人) の基準配置にしたいけれど、2.5 : 1 にせざるを得ない、現場の負担感、定着率の悪化、採用難等々、悪い循環に陥るといふ状況です。担い手不足は、組織へのダメージが大きいと痛感します。国も人づくりに改革と銘打って二〇一九年秋を目処に、十年以上の経験者・有資格者に月額八万円を上乗せできるような財源を確保する等の対応策を掲げています。期待はしていますが、これだけで人材難が解消されるとは思えませんし、それ以上に各事業所の踏ん張りが求められるのだろうと厳しく捉えています。これをやれば万事もうまくいくという魔法の杖はないですから、こつこつと地道に、人が集まる事業所の風土づくりに取り組むたいと考えています。

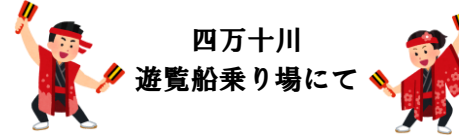
四月には新卒十名を含む十七名が法人の職員に加わり、総勢二百二十名ほどになりました。また、西高屋宮領地区で、グループホームに続き新しい通所事業を始めます。ご利用いただく方々、地域、そして職員、三方に評価される拠点になるよう、しっかりと成果を上げていきます。引き続き、ご支援を賜りますようお願い致します。

理事長 赤坂秀則

新年度を迎えて



四万十川
遊覧船乗り場にて



支援員 呼川 秀邦

ホーム「第二花はな」利用者の高山弘光さんは今年83歳になります。若いころ、高知旅行をしたときに、宿泊した旅館の仲居さんから「また高知へ来てくださいね」と言われ、「はい」と答えたことが気がかりで、もう一度高知に行きたいと思っていました。

このたび念願が叶い、同じグループホームの仲間2人と支援員とで、3月5日・6日の両日、高知旅行に行くことができました。初日、ひかり号と南風号で高知駅へ。そこでレンタカーを借りて四万十市へ。市内観光して遊覧船に乗りました。新ロイヤルホテル四万十へ宿泊。かつおのたたき、刺身、うつぼ鍋などをいただきました。(^^)

二日目は高知へ。桂浜で龍馬さんにご挨拶し、ひろめ市場などを観光しました。旅館の仲居さんに会えたわけではありませんが、約束を果たせた満足感とともに南風号に乗り込んで帰路につきました。



あおぞら工房

点から線の改善を



利用者さんが
働きやすい
職場を
目指していま
す!!

就労支援員 内田 孝洋

あおぞら工房のウエスの作業場では、これまで特に支障を感じることもなく、何年も同じ状態で作業をしてきました。

しかし、機の配置の変更をきっかけとして、少しでも利用者さんが作業しやすいよう、作業環境の改善に取り組みすることにしました。

機の高さを調整したり、作業手順を変更する等の調整を重ねた結果、作業効率が上がって廃棄も減り、ウエスの生産高が増加し、1.4倍になりました。

作業の一部分を改善する事を「点の改善」、それらが相互作用を生み全体が改善する事を「線の改善」と呼ぶそうです。実際に線の改善が出来たウエスの作業場では作業に余裕が生まれ、利用者さんが新しい作業に取り組めるという予想外の効果も出ています。例え一つひとつは小さな取り組みでも、それを続けていけばいつか大きな結果をもたらすという事を、今回学びました。

これからもこの経験を活かし少しでもより良い支援を目指したいと思えます。

送迎車を整備しました

この度広島県共同募金会より、『平成29年度NHK歳末たすけあい助成金』の交付を受け、日産セレナを整備しました。利用者の送迎や外出に、長く大切に使用させていただきます。ありがとうございました。



赤い羽根共同募金
NHK歳末たすけあい助成

